

◇関連資料
委員会資料

地域活性化委員会
(平成21～23年度 開催実績)

目次

ページ番号

[委員会]

平成21年度

平成21年度 地域活性化委員会 委員名簿	2
第1回 地域活性化委員会 3月23日(火)	2

平成22年度

平成22年度 地域活性化委員会 委員名簿	6
第1回 地域活性化委員会 5月20日(木)	7
第2回 地域活性化委員会 2月25日(金)	10
「大学連携による地域活性化シンポジウム」分科会2 打合せ会議	13

平成23年度

平成23年度 地域活性化委員会 委員名簿	15
「大学連携による地域活性化シンポジウム」分科会2 打合せ会議	16
第1回 地域活性化委員会 5月31日(火)	17
第1回 岡山オルガノン 他大学連携「エコナイト」打合せ会議	20
第2回 地域活性化委員会 2月23日(木)	22

[イベント]

平成22年度

エコナイト	29
地域活性化シンポジウム	33

平成23年度

大学連携による地域活性化シンポジウム	35
エコナイト	37

平成 21 年度 地域活性化委員会 委員名簿

◎：委員長

大学名	委員氏名	所属・職名
岡山大学	川本 平山	教育開発センター 教授
	簗島 素子	学務部 学務企画課 企画室 専門職員
岡山県立大学	岡崎 順子	保健福祉学部 教授
	倉田 太吾	事務局 総務課 主幹
岡山商科大学	◎ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長
	多田 憲一郎	経済学部 教授 地域再生支援センター長
岡山理科大学	猪口 雅彦	生物化学科、学生部 次長
	富岡 直人	学生部 次長
川崎医科大学	大槻 剛巳	学長補佐、衛生学 教授
	松島 眞浩	公衆衛生学 講師
川崎医療福祉大学	西本 哲也	リハビリテーション学科 講師、 ボランティアセンター 副センター長
環太平洋大学	佐藤 忠文	次世代教育学部 教授
倉敷芸術科学大学	小山 悦司	教育研究支援センター所長 教授
	小田上 和男	庶務部 次長
くらしき作陽大学	稲谷 靖子	子ども教育学部 准教授
	河村 敦	食文化学部 准教授
山陽学園大学	澁谷 俊彦	総合人間学部 生活心理学科 教授
就実大学	原田 龍宜	生活科学科 准教授
	桑原 和美	人文科学部 総合歴史学科 教授
中国学園大学	飯田 哲司	情報ビジネス学科 教授
	中田 周作	子ども学部 講師

第 1 回 岡山オルガノン 「地域活性化委員会」 議題用紙

1. 日 時 平成 22 年 3 月 23 日（火） 13：30～15：30
2. 場 所 岡山商科大学 7号館 7階 772 教室
3. 参加者 委員会担当委員、他関係者
4. 議 題

(1) 各大学の取組と今後の活動について

【資料 1】

- ① 中国学園大学（講師 中田 周作 氏）
 - ② 環太平洋大学（次世代教育学部 教授 佐藤 忠文 氏）
 - ③ 川崎医療福祉大学（ボランティアセンター 副センター長 講師 西本 哲也 氏）
 - ④ 岡山商科大学（副学長 大崎 紘一）
 - ⑤ くらしき作陽大学（准教授 河村 敦 氏）
 - ⑥ 倉敷芸術科学大学（教育研究支援センター所長 教授 小山 悦司 氏）
- (2) エコナイトについて 【資料2】
- ① 岡山理科大学（講師 猪口 雅彦 氏）
- (3) その他

【資料1】 .. 「岡山県内の特定地域について取り組みに関する研究テーマ」

【資料2】 「エコナイトについて」

出席者一覧

◎：委員長 ○：委員 ●：代理 ■：陪席

大学名	出席者氏名	所属・職名	出欠
岡山商科大学	◎ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長	○
	○ 多田 憲一郎	経済学部 教授 地域再生支援センター長	×
	■ 中村 裕	総務企画課 主任	○
	● 矢延 里織	岡山商科大学オフィス コーディネーター	○
	■ 荒木 智子	岡山商科大学オフィス 事務補佐員	○
岡山理科大学	○ 富岡 直人	准教授	○
	○ 猪口 雅彦	講師	○
	■ 斎藤 達昭	准教授	○
	■ 木村 宏	大学教育連携センター センター長	○
	■ 佐藤 大介	大学教育連携センター コーディネーター	○
川崎医科大学	○ 大槻 剛巳	学長補佐、教授	○
	○ 松島 眞浩	公衆衛生学 講師	×
川崎医療福祉大学	○ 西本 哲也	講師、ボランティアセンター 副センター長	○
環太平洋大学	○ 佐藤 忠文	次世代教育学部 教授	○
山陽学園大学	○ 澁谷 俊彦	社会サービスセンター長	○
就実大学	○ 桑原 和美	人文科学部 総合歴史学科 教授	×
	○ 原田 龍宜	准教授	○

中国学園大学	○ 飯田 哲司	教授	×
	○ 中田 周作	講師	○

テレビ会議システム 出席者一覧

岡山大学	○ 川本 平山	教育開発センター 教授	×
	○ 簗島 素子	専門職員	○
	● 遠山 和大	特任助教、岡山大学オフィス コーディネーター	○
	■ 小林 祐也	岡山大学オフィス 事務補佐員	○
	■ 爲永 雅禎	学務部学生支援課 主査	○
岡山県立大学	○ 岡崎 順子	保健福祉学部 教授	×
	○ 倉田 太吾	事務局総務課 主幹	○
くらしき作陽大学	○ 稲谷 靖子	教授	○
	○ 河村 敦	准教授	○
	■ 加藤 充美	教授	○
倉敷芸術科学大学	○ 小山 悦司	教授、教育研究支援センター 所長	○
	○ 小田上 和男	庶務部 次長	○
	■ 村山 公保	教授	○
	■ 忠政 慎也	教務部 課長	○

第1回 岡山オルガノン 「地域活性化委員会」 議事録

日 時：平成22年3月23日（火）13：30～15：40

場 所：岡山商科大学 7号館7階772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室

（1）委員長の選出

岡山商科大学オフィス 矢延コーディネーターより岡山商科大学オフィス 大崎室長が委員長を務めてもよいか提案がなされ、これが了承された。

（2）挨拶

大学教育連携センター 木村センター長から挨拶があった。

（3）出席者の紹介

（4）各大学の取組と今後の活動について

出席された各大学から別紙資料に基づき、地域に関する研究や活動内容等の発表が以下の通り行われた。（山陽学園大学 渋谷委員は欠席された。）

- （a）中国学園大学で行っている「ちゅうたん おもちゃ公園」と「おかやま連携大学祭」の企画を学生と考えていること、学童保育の指導員資格を認定する活動についての

発表があった。(中国学園大学)

- (b) 平成21年度に環太平洋大学が周辺地域の方と一緒にいった活動について発表された。(環太平洋大学)
- (c) 川崎医療福祉大学周辺地域との関わり方について、また倉敷市との連携とボランティアセンターの取組みについて発表された。(川崎医療福祉大学)
- (d) 新庄村と笠岡諸島における地域および学生参加型の研究をそれぞれで行っていることについて発表された。(岡山商科大学)
- (e) テレビ会議システムを用いて、くらしき作陽大学が行っている周辺地域の方と一緒にいった活動について発表された。(くらしき作陽大学)
- (f) 配布資料は無かったが、昨年川崎医科大学で教育施設を提供して行われた「夏の子ども体験教室」について発表された。(川崎医科大学)
- (g) 配布資料は無かったが、昨年度から行われている科学ボランティアGPについて地域にどうやって科学について貢献するかを学生と考えていることについて発表された。(岡山理科大学)
- (h) 配布資料は無かったが、就実大学周辺地域の方へ開放した公開講座の開催などの活動について発表された。(就実大学)
- (i) 配布資料は無かったが、岡山県立大学で行われている公開講座についての発表があった。(岡山県立大学)
- (j) テレビ会議システムを用いて、倉敷芸術科学大学が周辺地域の活性化に向けての活動の事例を紹介された。(倉敷芸術科学大学)

(主な意見)

大崎委員長より以下の意見があった。

- (a) 中国学園大学の「おかやま連携大学祭」は、8月に行うのであれば「エコナイト」と合わせて出来ないかとの提案があった。
 - (b) 各大学の特性を生かした学生参加型で、地域と一緒にいった催しが企画できたら面白いと思う。
 - (c) また、大学教育連携センター 木村センター長の挨拶の話にもあったが、地域活性化のためになるような活動を行行政とリンクして行いたい。
 - (d) 各大学で行っている地域貢献活動をまとめて来年の1月頃にシンポジウムを開催したい。
 - (e) 今後は2カ月に1度、地域活性化委員会を行いたい。
 - (f) 地域と一緒に参加大学が活性化していきたい。
- (5) エコナイトについて
- 別紙資料に基づき、岡山理科大学で行われた「七夕エコナイト」の取組内容と今後の発展について、岡山理科大学、猪口委員、富岡委員、斎藤先生から説明があった。

(主な質疑)

(Q1) 使用したろうそくの後始末等はどうやっているのか。汚れたりしないのか。また、火の取り扱いはどうしているのか。(川崎医療福祉大学 西本委員)

(A1) てんぷら油などの廃油を使っているのだから、汚れることはあるのでそうじは必要になるだろう。また、火災については慎重にしないといけないので、職員と打ち合わせをして消火器等の準備をしておいた。ろうそくづくりをしている「アスエコ」のイベントに参加して作成する方法もある。(岡山理科大学・猪口委員、富岡委員、齋藤委員)

(主な意見)

- (a) 昨年の「七夕エコナイト」に参加したが、参加した学生には大変好評だった。もっと積極的に参加したいとの声が多かった。(倉敷芸術科学大学 小山委員)
- (b) 今年の7月7日に「エコナイト」を行うことで決定した。(大崎委員長)
- (c) 大学の専門性を生かしたエコに繋がる話等テレビ会議システムを用いて行うことで、より大学連携がとれるのではないかと。(岡山大学オフィス 小林事務補佐員)
- (d) 社会科学系、人文科学系の大学では、ろうそく等のもの作りは敷居が高いので、既存の化学薬品による発光(化学発光)を利用するなどして協力してはどうかとの提案があった。(大崎委員長)

平成22年度 地域活性化委員会 委員名簿

◎：委員長

大学名	委員氏名	所属・職名
岡山大学	三好 伸一	大学院医歯薬学総合研究科 教授
	小林 祐也	岡山大学オフィス 事務補佐員
岡山県立大学	岡崎 順子	保健福祉学部 教授
	吉田 真智子	総務課 企画広報班
岡山学院大学	宮崎 正博	人間生活学部 教授
岡山商科大学	◎ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長
	多田 憲一郎	経済学部教授、地域再生支援センター長
岡山理科大学	荒木 圭典	知能機械工学科 准教授、学務部 次長
	猪口 雅彦	生物化学科 講師、学務部 次長
川崎医科大学	大槻 剛巳	学長補佐、衛生学 教授
	松島 眞浩	公衆衛生学 講師
川崎医療福祉大学	西本 哲也	リハビリテーション学科 講師
環太平洋大学	佐藤 忠文	次世代教育学部 教授
吉備国際大学	黒田 知嗣	庶務部 庶務課
倉敷芸術科学大学	小山 悦司	教育研究支援センター所長、

		産業科学技術学部 教授
	藤得 博貴	庶務部長
くらしき作陽大学	河村 敦	食文化学部 准教授
山陽学園大学	澁谷 俊彦	総合人間学部 生活心理学科 教授
就実大学	小山 眞也	薬学部薬学科 教授
	原田 龍宜	生活科学科 准教授
中国学園大学	飯田 哲司	情報ビジネス学科 教授、地域連携センター所長
	高 早苗	現代生活学部 教授
	中田 周作	子ども学部 講師
	新谷 貴子	総務課 課長補佐
ノートルダム清心 女子大学	加藤 正春	人間生活学部 教授

第 1 回 岡山オルガノン 「地域活性化委員会」 議題用紙

1. 日 時 平成 22 年 5 月 20 日 (木) 17:00～18:30

2. 場 所 岡山商科大学 7号館 7階 772 教室

3. 参加者 地域活性化委員会委員、連携校関係者

4. 議 題

(1) エコナイトについて

【資料 1】

(2) 地域活性化シンポジウムの開催について

【資料 2】

(3) その他

活動の計画

平成 22 年 7 月 7 日 (水) エコナイトの開催

平成 22 年 10 月 2 日 (土) (予定) 地域活性化シンポジウムの開催

【資料 1】 「エコナイト資料」

【資料 2】 「地域活性化シンポジウム (案)」

出席者一覧

◎ : 委員長 ○ : 委員 ● : 代理 ■ : 陪席

大学名	出席者氏名	所属・職名	出欠
岡山県立大学	○ 岡崎 順子	保健福祉学部 教授	○
	○ 吉田 真智子	事務局 総務課 企画広報班 主事	○
岡山学院大学	○ 宮崎 正博	食物栄養学科 教授	○

岡山商科大学	◎ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長	○
	○ 多田 憲一郎	地域再生支援センター長、経済学部教授	○
	■ 中村 裕	産学官連携センター 主任	○
	■ 矢延 里織	岡山商科大学オフィス コーディネーター	○
	■ 長内 路子	岡山商科大学オフィス 事務補佐員	○
川崎医療福祉大学	○ 西本 哲也	ボランティアセンター副センター長 リハビリテーション学科 講師	○
環太平洋大学	○ 佐藤 忠文	教授	○
くらしき作陽大学	○ 河村 敦	准教授	○
山陽学園大学	○ 澁谷 俊彦	社会サービスセンター長	○
就実大学	○ 小山 眞也	薬学部薬学科 教授	○
	○ 原田 龍宜	就実短期大学 生活科学科 准教授	×
中国学園大学	○ 中田 周作	子ども学部 講師	○
	○ 飯田 哲司	地域連携センター 所長	×
ノートルダム清心女子大学	○ 加藤 正春	人間生活学部 教授	○

テレビ会議システム 出席者一覧

岡山大学	○ 三好 伸一	大学院医歯薬学総合研究科 教授	○
	○ 小林 祐也	岡山大学オフィス 事務補佐員	○
	■ 遠山 和大	助教、岡山大学オフィス コーディネーター	○
岡山理科大学	○ 荒木 圭典	学務部 次長	○
	○ 猪口 雅彦	生物化学科 講師、学務部次長	○
	■ 富岡 直人	生物地球システム学科 准教授	○
	■ 木村 宏	大学教育連携センター センター長	○
	■ 佐藤 大介	大学教育連携センター コーディネーター	○
川崎医科大学	○ 大槻 剛巳	学長補佐、衛生学 教授	×
	○ 松島 眞浩	公衆衛生学 講師	○
倉敷芸術科学大学	○ 小山 悦司	教育研究支援センター所長、教授	○
	○ 藤得 博貴	生物地球システム学科 准教授	○

第1回 岡山オルガノン 「地域活性化委員会」 議事録

日 時：平成22年5月20日（木）17：00～18：20

場 所：岡山商科大学 7号館7階772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室

(1) 会議に先立ち、遠隔会場（岡山大学、岡山理科大学、川崎医科大学、倉敷芸術科学大学）の紹介があった。

(2) エコナイトについて

① 岡山理科大学の取組状況と検討

大学教育連携センター 木村センター長から、別紙資料に基づき、昨年度までの取り組みについての説明及び岡山オルガノンの取り組み案についての説明があった後、大崎委員長が議事進行を担当し、以下の議論を行った。

(主な意見)

(3) 消灯の様子をウェブカメラで撮影するなどの取り組みを行ってはどうか。

(4) 食用廃油を集めてペガサスキャンドルを訪問見学することはどうか。

→バスの手配などの問題があるが良いのではないか。

(a) 廃油キャンドルだけの点灯は品質の面から難しい。点灯しながらコンサートを実施するなどした。

(b) 希望を集めて、廃油及び凝固剤などを収集・購入、配分するのはどうか。

(c) 100円ショップのルミカライトは安全に使用でき安価である。

(d) コスト面では発光薬品は5,000円で50個制作可能、メーカーから直接購入、容器はプラスチックを使用。ピペットで2液を混合する。安全な薬品である。

(e) 化学発光の薬品の処分はどうするのか。

(f) ライトダウン及びマイカー乗り控えは各大学で呼びかけ、キャンドルは岡山理科大学で作成してはどうか。

(g) ステージでの啓発イベントが難しいのだが。

→アスエコなどと調整し環境についての講演会はどうか。また、学生が積極的に取り組むようなプログラムを組んでみてはどうか。

② 各大学での取り組みについて

各大学での取組状況及び対応について委員から発言をしていただいた。

③ 今後の活動の実施に向けては、次の通りとした。

(a) 6月2週までに各大学の実施内容について、オフィスで取りまとめを行う。

(b) 実施内容は、商科大学オフィスと大学教育連携センターが相談しながら作成する。

(c) 費用、用具についても連絡をする。

(d) 委員会は開催せず、メールで打ち合わせて実施する。

(5) 地域活性化シンポジウムについて

大崎委員長から、平成22年3月23日の地域活性化委員会で行われた、各大学からの地域研究の事例発表に基づき、10月2日に事例報告及びパネルディスカッションを基本としたシンポジウムを開催することについて説明があった。

- (a) 山陽学園大学：持ち帰りテーマ選定を行う。
- (b) くらしき作陽大学：持ち帰り確認する。
- (c) 倉敷芸術科学大学：差し支えない。
- (d) 岡山大学：事例を調査する。
- (e) 岡山理科大学：検討する。
- (f) 環太平洋大学：本学の研究テーマは第1回目より第2回目のシンポジウムの趣旨に近い。

大崎委員長から、その他事例があれば報告をいただきたいこと、来年度は地域の子ども・高齢者との連携を行ったもののシンポジウムとしたいとの説明があった。

第2回 岡山オルガノン「地域活性化委員会」 議題用紙

1. 日 時 平成23年2月25日（金） 13：30～15：00
2. 場 所 岡山商科大学 7号館7階772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室
3. 参加者 地域活性化委員会委員、連携校関係者
4. 議 題
 - (1) エコナイト」の開催について 【資料1】
 - (2) 「地域活性化シンポジウム」の開催について 【資料2】
 - (3) その他
 - 【資料1】 「エコナイトについて」
 - 【資料2】 「地域活性化シンポジウムについて」

出席者一覧

◎：委員長 ○：委員 ●：代理 ■：陪席

大学名	出席者氏名	所属・職名	出欠
岡山県立大学	○ 岡崎 順子	保健福祉学部 教授	×
	○ 吉田 真智子	事務局 総務課 企画広報班 主事	×
岡山学院大学	○ 宮崎 正博	人間生活学部 教授	○
岡山商科大学	◎ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長	○
	○ 多田 憲一郎	経済学部 教授、地域再生支援センター長	×

	■ 中村 裕	産学官連携センター 主任	○
	● 矢延 里織	岡山商科大学オフィス コーディネーター	○
	■ 長内 路子	岡山商科大学オフィス 事務補佐員	○
岡山理科大学	○ 荒木 圭典	知能機械工学科 准教授、学務部 次長	○
	○ 猪口 雅彦	生物化学科 講師、学務部 次長	○
	■ 木村 宏	大学教育連携センター センター長	○
	■ 佐藤 大介	大学教育連携センター コーディネーター	○
川崎医科大学	○ 大槻 剛巳	学長補佐、衛生学 教授	○
	○ 松島 眞浩	公衆衛生学 講師	×
川崎医療福祉大学	○ 西本 哲也	リハビリテーション学科 講師 ボランティアセンター 副センター長	○
環太平洋大学	○ 佐藤 忠文	次世代教育学部 教授	×
くらしき作陽大学	○ 河村 敦	食文化学部 准教授	○
就実大学	○ 小山 眞也	薬学部薬学科 教授	○
	○ 原田 龍宜	就実短期大学 生活科学科 准教授	○
中国学園大学	○ 飯田 哲司	情報ビジネス学科 教授 地域連携センター 所長	×
	○ 高 早苗	現代生活学部 教授	×
	○ 中田 周作	子ども学部 講師	○
	○ 新谷 貴子	総務課 課長補佐	×
ノートルダム清心女子大学	○ 加藤 正春	人間生活学部 教授	×

テレビ会議システム 出席者一覧

岡山大学	○ 三好 伸一	大学院医歯薬学総合研究科 教授	×
	○ 小林 祐也	岡山大学オフィス 事務補佐員	○
吉備国際大学	○ 黒田 知嗣	庶務部 庶務課学外連携担当	○
倉敷芸術科学大学	○ 小山 悦司	教育研究支援センター 所長 産業科学技術学部 教授	○
	○ 藤得 博貴	庶務部長	○
山陽学園大学	○ 澁谷 俊彦	総合人間学部 生活心理学科 教授	×
	● 山田 寛	教務部 教務課 主任	○

第2回 岡山オルガノン 「地域活性化委員会」 議事録

日 時：平成23年2月25日（金）13：30～15：00

場 所：岡山商科大学 7号館7階 772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室

(1) エコナイト開催について

① アンケートの確認

② 来年度エコナイトに関するご意見の確認

学生・教職員が全員参画することが大事との見解が示された。

③ 自治体との連携について

県のエコパートナーシップ参加について説明

無料で会員になることができ、コンソーシアムが会員になり、エコナイトなどの活動をすすめていきたい。了承をえた。

④ 蛍光ライト、エコキャンドルの来年度の使用について

(主な意見)

(a) 予想以上にペガサスキャンドルの性能が高かったので、自分たちで作成するのもいいが、やはり成功して終えることに意義があると感じた。(岡山理科大学 猪口委員)

(b) 蛍光ライトは学内でも好評だったので、来年度も参加していきたい。環境配慮の点から、使用後の処理についても特に問題はなかったと思う。(倉敷芸術科学大学 小山委員)

(c) イベント後にエコナイトの活動内容の写真展などを開催し、PR活動をしてみては。(大学教育連携センター 木村センター長)

(主な質疑)

(Q1) エコナイトをすることでどのような教育効果があるのか、社会科学的な視点からどのように考えられているか。(岡山大学オフィス 小林事務補佐員)

(A1) そういったポリシーは明確にしていかなければいけない。

(Q2) 具体的な意見をお願いする。(大崎委員長)

(A2) 環境科学系の講義を利用するなどすれば学生の教育と結び付くのでは。(岡山大学オフィス 小林事務補佐員)

以上により、今後各大学で教育からの取り組みやPRも考えていくことでまとまった。

(2) 地域活性化シンポジウムについて

① 資料2に基づき、各大学の研究テーマなどを確認、今年度のシンポジウムについて説明。

② 来年度のシンポジウム企画案について意見交換

大崎委員長より、大学連携シンポジウムとの合同開催の説明また、分科会方式での

開催の提案をした。現時点で、子ども・福祉についてどこかの大学が取りまとめることを提案した。また、日時について6月26日が有力であることを説明した。それについて、大学教育連携センター 佐藤コーディネーターより、年度初めに開催することで、その後のイベントに学生、教職員の多くの参加を期待することができるというメリットが挙げられた。

(主な意見)

- (a) 教育の専門家の倉敷芸術科学大学 小山委員がとりまとめられては。(川崎医療福祉大学 西本委員)
- (b) 年度初めの開催と分科会方式での開催には賛同する。倉敷まちづくり論を受講していた学生が今後も地域活性化に参画していこうとしているので、是非参加したい。また会場の一つを担当できる(倉敷芸術科学大学 小山委員)
- (c) 子ども向けに活動している学生たちが参画していくことは可能性としてある。(川崎医科大学 大槻委員)
- (d) 保育園や幼稚園の先生の養成をしているので、シンポジウムというより、学生の専門性を生かしながら、親子を対象としたイベントスタイルがよいのではないか。(中国学園大学 中田委員)
- (e) 会場の分散化をし、子ども向けならば専門性の高い大学を会場にしたほうがよいのではないか。(大崎委員長)
- (f) 定期的に行っている科学ボランティア活動の場合、対象は地域の親子で、文科系に理科系の側面を加えることができるので、講演と実演を混ぜた形での開催もよいのではないか。場所についてはどこでも開催可能。(岡山理科大学 猪口委員)
- (g) 6月に生涯学習課による子ども対象のイベントがあるので連携開催してみてもどうか。(中国学園大学 中田委員)
- (h) 今後、予算の問題もあるので、これまででた意見や提案をまとめて検討していきたい。(大崎委員長)
- (i) 具体的に何ができるか検討が必要ではないか。(大学教育連携センター 木村センター長)

「大学連携による地域活性化シンポジウム」 分科会2 打合せ

1. 日 時 平成23年3月18日(金) 13:00~14:30
2. 場 所 岡山商科大学 産学官連携センター(附属図書館6階)
3. 参加者 シンポジウム担当者、ブース出展予定者

出席者一覧

◎：委員長 ○：委員 △：担当者 ▲：出展予定者 ●：代理 ■：陪席

大学名	出席者氏名	所属・職名	出欠
岡山県立大学	○ 岡崎 順子 △	保健福祉推進センター長	○
	○ 吉田 真智子	事務局 総務課 企画広報班 主事	×
岡山理科大学	△ 高原 周一 ▲	理学部 准教授	×
	● 森田 明義	科学ボランティアセンター コーディネーター	○
	○ 荒木 圭典	知能機械工学科 准教授、学務部 次長	○
川崎医療福祉大学	▲ 武井 祐子	臨床心理学科 准教授	×
	○ 西本 哲也 △	ボランティアセンター 副センター長	○
倉敷芸術科学大学	▲ 五十嵐 英之	准教授	×
	▲ 入江 久美子	芸術学部 美術工芸学科 1年次生	×
	○ 小山 悦司 △	教授	×
山陽学園大学	○ 澁谷 俊彦 ▲	総合人間学部 生活心理学科 教授	○
	△ 田中 直喜	会計課主任	×
就実大学	▲ 佐藤 和順	人文科学部 准教授	×
	△ 千田尾 翠	企画広報課 事務員	×
	○ 小山 真也	薬学部薬学科 教授	○
中国学園大学	○ 中田 周作 △ ▲	子ども学部 講師	○
	▲ 脇 明子	児童学科 教授、附属図書館長	×
ノートルダム清心女子大学	○ 加藤 正春 △	人間生活学研究科長	×
	◎ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長	○
岡山商科大学	■ 中村 裕	産学官連携センター 主任	○
	■ 矢延 里織	岡山商科大学オフィス コーディネーター	○

平成23年度 地域活性化委員会 委員名簿

◎：委員長

大学名	委員氏名	所属・職名
岡山大学	三好 伸一	大学院医歯薬学総合研究科 教授、 生涯学習 教育連携部門長
	小林 祐也	岡山大学オフィス 事務補佐員
岡山県立大学	岡崎 順子	保健福祉学部 教授
	吉田 真智子	総務課 企画広報班
岡山学院大学	宮崎 正博	人間生活学部 教授
岡山商科大学	◎ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長
	多田 憲一郎	経済学部 学部長
岡山理科大学	荒木 圭典	知能機械工学科 准教授、学務部 次長
	猪口 雅彦	生物化学科 講師、学務部 次長
川崎医科大学	大槻 剛巳	学長補佐、衛生学 教授
	松島 眞浩	公衆衛生学 講師
川崎医療福祉大学	西本 哲也	ボランティアセンター 副センター長、 健康体育学科 講師
環太平洋大学	勝田 麻津子	乳幼児教育学科長、実践教育研究センター長
吉備国際大学	井勝 久喜	環境経営学部長、教授
倉敷芸術科学大学	小山 悦司	教育研究支援センター所長、産業科学技術学部 教授
	田辺 昇	庶務部 参事
くらしき作陽大学	河村 敦	食文化学部 准教授
山陽学園大学	澁谷 俊彦	総合人間学部 生活心理学科 教授
就実大学	鈴木 利典	薬学部 教授
中国学園大学	飯田 哲司	情報ビジネス学科 教授、地域連携センター所 長
	新谷 貴子	総務課 課長補佐
	中田 周作	子ども学部 講師
ノートルダム清心 女子大学	加藤 正春	人間生活学部 教授

「大学連携による地域活性化シンポジウム」 分科会 2 打合せ

1. 日 時 平成23年4月26日（火）17:00～19:00
2. 場 所 岡山商科大学 産学官連携センター（附属図書館6階）
3. 参加者 シンポジウム担当者、ブース出展予定者、地域活性化委員会 委員、連携校関係者

4. 議 題

（1） 「第2分科会」の開催内容について

- | | |
|-----------------------|-------|
| ① 企画案について | 【資料1】 |
| ② 実施計画について | 【資料2】 |
| ③ 搬入品について | 【資料3】 |
| ④ アンケート用紙とスタンプラリーについて | 【資料4】 |
| ⑤ 駐車場の誘導における学生の配置について | 【資料5】 |

（2） その他

- 【資料1】 「大学連携による地域活性化シンポジウム企画案」
- 【資料2】 「大学連携による地域活性化シンポジウム実施計画」
- 【資料3】 「第2分科会搬入項目記入欄」
- 【資料4】 「アンケート例」
- 【資料5】 「学生配置表」

出席者一覧

◎：委員長 ○：委員 △：担当者 ▲：出展予定者 ●：代理 ■：陪席 □：学生

大学名	出席者氏名	所属・職名	出欠
岡山県立大学	○ 岡崎 順子	保健福祉学部 教授、 保健福祉推進センター長	○
岡山商科大学	◎ 大崎 絃一	岡山商科大学オフィス室長、副学長	○
	▲ 高林 宏一	経営学部 准教授	○
	□ 香西 俊貴	経営学部 商学科3年	○
	■ 中村 裕	産学官連携センター 主任	○
	△ 矢延 里織	岡山商科大学オフィス コーディネーター	○
	■ 長内 路子	岡山商科大学オフィス 事務補佐員	○
岡山理科大学	▲ 高原 周一	理学部 准教授	○
	○ 荒木 圭典	知能機械工学科 准教授、学務部 次長	○

	■ 木村 宏	大学教育連携センター センター長	○
	● 北村 光一	大学教育連携センター コーディネーター	○
川崎医療福祉大学	○△ 西本 哲也	健康体育学科 講師、 ボランティアセンター 副センター長	○
倉敷芸術科学大学	○△ 小山 悦司	教育研究支援センター 所長	○
	○ 田辺 昇	庶務部 参事	○
山陽学園大学	○▲ 澁谷 俊彦	総合人間学部 生活心理学科 教授	○
就実大学	▲ 佐藤 和順	教育学部 教授	×
	△ 千田尾 翠	企画広報課 事務員	○
中国学園大学	○▲ △ 中田 周作	子ども学部 講師	○
	■ 寺田 悟	地域連携センター	○

第1回 岡山オルガノン 「地域活性化委員会」 議題用紙

1. 日 時 平成23年5月31日（火）17:00～19:00
2. 場 所 岡山商科大学 7号館7階772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室
3. 参加者 地域活性化委員会委員、イベント実施担当者、連携校関係者
4. 議 題
 - (1) 「大学連携による地域活性化シンポジウム」の開催について
 - ① 第2分科会 広報先について 【資料1】
 - ② 第2分科会 出展ブースの配置について 【資料2】
 - ③ 駐車場と会場案内について 【資料3】
 - ④ 記名帳、アンケート、スタンプラリー（大学グッズ）について 【資料4】
 - ⑤ その他
 - 5-1 開催における注意事項について
 - 5-2 学生アルバイトについて
 - 5-3 物品の納品について
 - 5-4 連携校案内資料コーナーについて
 - (2) 「エコナイト」の開催について
 - ① エコナイト企画案について 【資料5】
 - ② 岡山市のイベントについて 【資料6】
 - ③ 岡山県のイベントについて 【資料7】
 - (3) その他

- 【資料1】 「大学連携による地域活性化シンポジウムちらし&ポスター配布先」
 【資料2】 「大学連携による地域活性化シンポジウムレイアウト」
 【資料3】 「岡山商科大学案内図」
 【資料4】 「大学連携による地域活性化シンポジウム資料」
 【資料5】 「エコナイト企画案」
 【資料6】 「平成23年度エコナイト打ち合わせ」
 【資料7】 「エコナイト岡山県資料」

出席者一覧

◎：委員長 ○：委員 ●：代理 ■：陪席

大学名	出席者氏名	所属・職名	出欠
岡山大学	○ 三好 伸一	大学院医歯薬学総合研究科 教授、 生涯学習・教育連携部門長	×
	○ 小林 祐也	岡山大学オフィス 事務補佐員	×
岡山県立大学	○ 岡崎 順子	保健福祉学部 教授	○
	○ 吉田 真智子	事務局 総務課企画広報班 主事	○
	■ 越川 茂樹	情報工学部 スポーツシステム工学科 准教授	○
岡山商科大学	◎ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長	○
	○ 多田 憲一郎	経済学部 学部長	○
	■ 高林 宏一	経営学部 商学科 准教授	○
	■ 中村 裕	産学官連携センター 主任	○
	■ 矢延 里織	岡山商科大学オフィス コーディネーター	○
	■ 長内 路子	岡山商科大学オフィス 事務補佐員	○
岡山理科大学	○ 荒木 圭典	知能機械工学科 准教授、学務部 次長	○
	○ 猪口 雅彦	生物化学科 講師、学務部 次長	×
	■ 高原 周一	理学部 化学科 准教授	×
	■ 木村 宏	大学教育連携センター センター長	○
	● 北村 光一	大学教育連携センター コーディネーター	○
川崎医療福祉大学	○ 西本 哲也	健康体育学科 講師、 ボランティアセンター 副センター長	○
	■ 武井 祐子	医療福祉学部臨床心理学科 准教授	○

環太平洋大学	○ 勝田 麻津子	乳幼児教育学科長、実践教育研究センター長	○
吉備国際大学	○ 井勝 久喜	環境経営学部長、教授	○
	■ 黒田 知嗣	庶務部 庶務課	○
倉敷芸術科学大学	○ 小山 悦司	教育研究支援センター所長、産業科学技術学部 教授	○
	○ 田辺 昇	庶務部 参事	×
くらしき作陽大学	○ 河村 敦	食文化学部 准教授	×
	● 加藤 充美	学生部長	×
就実大学	○ 鈴木 利典	薬学部 教授	○
	■ 佐藤 和順	教育学部 教授	×
中国学園大学	○ 飯田 哲司	情報ビジネス学科 教授、地域連携センター 所長	×
	○ 新谷 貴子	総務課 課長補佐	×
	○ 中田 周作	子ども学部 子ども学科 講師	○
	● 寺田 悟	地域連携センター	○
ノートルダム清心女子大学	○ 加藤 正春	人間生活学部 教授	○

テレビ会議システム 出席者一覧

岡山学院大学	○ 宮崎 正博	人間生活学部 教授	○
川崎医科大学	○ 大槻 剛巳	学長補佐、衛生学 教授	×
	○ 松島 眞浩	公衆衛生学 講師	○
山陽学園大学	○ 澁谷 俊彦	総合人間学部 生活心理学科 教授	○

第1回 岡山オルガノン 「地域活性化委員会」 議事録

日 時：平成23年5月31日（火）17:00～18:30

場 所：岡山商科大学 7号館7階772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室

- (1) 会議に先立ち、遠隔会場（岡山学院大学、川崎医科大学、山陽学園大学）の紹介があった。
- (2) 「大学連携による地域活性化シンポジウム」の開催について
 - ① 大学教育連携センター 北村コーディネーターより第1分科会について進捗状況の説明があった。
 - ② 大崎委員長より第2分科会について、資料1～4に基づき説明があり、出展者に対し、ブースの配置、駐車場、記名帳、アンケートなどについて確認を行った。岡山

商科大学 中村主任より、当日の搬入について、学生のアバイト代についての説明があった。

(主な意見)

(3) 第1分科会の広報先について、資料にある以外に、倉敷市役所、青年館、ゆうあいセンター、岡山県文化連盟、アスエコ、県内の高等学校などにも配布をした。(大学教育連携センター 木村センター長)

(4) 保護者と子どもが一緒に考えて答えられるようなアンケートがいいのでは。(山陽学園大学 澁谷委員)

(追加説明)

また、岡山商科大学オフィス 矢延コーディネーターより、当日のスタッフ控室について説明があり、貴重品は各自で保管することなどが伝えられた。掲示用スケジュールの確認も行った。

(5) 「エコナイト」の開催について

① ちらしについて確認を行った。

② 大崎委員長より資料5に基づき、企画案の説明があった。続いて、資料7に基づき岡山県の取り組み「エコパートナーシップおかやま」への参加についての説明があり、長期に渡る節電活動を心がけるなど連携校へ呼びかけをした。また資料6に基づき、岡山市のイベントへの参加について説明があった。学生を中心とした、東日本大震災への支援活動として、岡山駅東口にてロウソクやうちわにメッセージ書いてもらうなどの取り組みを行う。ロウソクについては、昨年同様ペガサスキャンドルへの訪問見学を行い、準備する予定。今後、参加する学生を連携校から募る。

(主な意見)

(6) 終始、マイクの音が小さく聞き取りにくかった。(岡山学院大学・宮崎委員)

(7) エコナイトではたくさんのイベントがあるのだなと思った。(川崎医科大学 松島委員)

(8) (シンポジウムを) 楽しんでもらえるよう頑張っていきたいと思う。(倉敷芸術科学大学 小山委員)

第1回 岡山オルガノン 他大学連携「エコナイト」打合せ会議 議題用紙

1. 日時 平成23年7月1日(金) 17:00～18:30

2. 場所 岡山商科大学 7号館7階772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室

3. 参加者 岡山商科大学 教職員4名、学生1名

岡山理科大学 教職員2名、学生2名

山陽学園大学 教職員2名、学生2名

4. 議 題

(1) エコナイト「七夕ライトダウンおかやま2011」の開催について

- ① 「エコナイト」実施案について 【資料1】
- ② 東日本応援に使用する物品について 【資料2】
- ③ 日本地図キャンドルの点灯について 【資料3】
- ④ エコうちわへの東日本応援メッセージの募集について
- ⑤ 化学実験と実演について

(2) 準備と片付けについて

(3) 実施上の注意点について

(4) その他

【資料1】 「エコナイト実施案」

【資料2】 「東日本応援に使用する物品」

【資料3】 「日本地図・階段前広場」

出席者一覧

◎：委員長 △：担当者 ■：陪席 □：学生

大学名	出席者氏名	所属・職名
山陽学園大学	△ 平井 雅人	学生部 学生課長
岡山商科大学	◎ 大崎 紘一	岡山商科大学オフィス室長、副学長
	■ 中村 裕	産学官連携センター 主任
	■ 伍賀 千恵	教学部 教務課 係長
	■ 面手 昌樹	教学部 学生課 学生係
	■ 板野 涼子	大学コンソーシアム岡山事務局
	△ 矢延 里織	岡山商科大学オフィス コーディネーター
	■ 長内 路子	岡山商科大学オフィス 事務補佐員
	□ 窪田	経済学部

テレビ会議システム 出席者一覧

岡山理科大学	△ 吉村 功	科学ボランティアセンター コーディネーター
	● 北村 光一	大学教育連携センター コーディネーター

	<input type="checkbox"/> 敷田	理学部
	<input type="checkbox"/> 園田	理学部
山陽学園大学	△ 澁谷 俊彦	総合人間学部 生活心理学科教授
	<input type="checkbox"/> 鳩野	看護学部、学友会長
	<input type="checkbox"/> 馬屋原	看護学部
就実大学	△ 虫明 茂	学生支援部長
	△ 沼本 和子	学生支援課 学生担当
	<input type="checkbox"/> 中務	人文科学部、学友会長
	<input type="checkbox"/> 土屋	人文科学部
	<input type="checkbox"/> 土井原	人文科学部
	<input type="checkbox"/> 奥山	人文科学部
	<input type="checkbox"/> 表	人文科学部
	<input type="checkbox"/> 大島	人文科学部
	<input type="checkbox"/> 徳永	人文科学部

第 2 回 岡山オルガノン 「地域活性化委員会」 議題用紙

1. 日 時 平成 24 年 2 月 23 日 (木) 15 : 30 ~ 17 : 00
2. 場 所 岡山商科大学 産学官連携センター 多目的室、各大学のテレビ会議システム
設置教室
3. 参加者 地域活性化委員会委員、イベント実施担当者、連携校関係者
4. 議 題
 - (1) 地域活性化委員会活動のまとめについて 【資料 1】
 - (2) 平成24年度「日ようび子ども大学」について 【資料 2】
 - (3) 大学コンソーシアム岡山の委員会委員について 【資料 3】

【資料 1】 「地域活性化活動のまとめ」
 【資料 2】 「平成 24 年度「日ようび子ども大学」」
 【資料 3】 「大学コンソーシアム岡山の委員会委員」

出席者一覧

◎：委員長 ○：委員 ●：代理 ■：陪席

大学名	氏名	所属・職名	出欠
岡山理科大学	○ 荒木 圭典	知能機械工学科 准教授、学務部 次長	×
	○ 猪口 雅彦	生物化学科 講師、学務部 次長	×
	■ 木村 宏	大学教育連携センター センター長	○
川崎医科大学	○ 大槻 剛巳	学長補佐、衛生学 教授	○
川崎医療福祉大学	○ 西本 哲也	健康体育学科 講師 ボランティアセンター 副センター長	×
環太平洋大学	○ 勝田 麻津子	乳幼児教育学科長、実践教育研究センター長	○
倉敷芸術科学大学	○ 小山 悦司	教育研究支援センター所長 産業科学技術学部 教授	×
	○ 田辺 昇	庶務部 参事	×
中国学園大学	○ 飯田 哲司	情報ビジネス学科 教授、地域連携センター所長	×
	○ 新谷 貴子	総務課 課長補佐	×
	○ 中田 周作	子ども学部 子ども学科 講師	○
	● 寺田 悟	地域連携センター	○
ノートルダム清心女子大学	○ 加藤 正春	人間生活学部 教授	×
	● 小田 久美子	人間生活学部 児童学科 講師	○
岡山商科大学	◎ 大崎 紘一	副学長、産学官連携センター長	○
	○ 多田 憲一郎	経済学部 学部長	○
	■ 中村 裕	産学官連携センター 主任	○
	■ 矢延 里織	岡山商科大学オフィス コーディネーター	○
	■ 長内 路子	岡山商科大学オフィス 事務補佐員	○
岡山県教育庁	亀山 定司	生涯学習課 企画推進班 総括主幹	○
	■ 竹本 庸	生涯学習課 企画推進班 主任	○

テレビ会議システム 出席者一覧

岡山大学	○ 三好 伸一	大学院医歯薬学総合研究科 教授 生涯学習・教育連携部門長	○
	○ 小林 祐也	学務部 学務企画課 事務職員	○
岡山県立大学	○ 岡崎 順子	保健福祉学部 教授	○
	○ 三原 和也	事務局 総務課 企画広報班 主任	○
岡山学院大学	○ 宮崎 正博	人間生活学部 教授	○

吉備国際大学	○ 井勝 久喜	環境経営学部長、教授	○
	■ 黒田 知嗣	庶務部 庶務課	○
くらしき作陽大学	○ 河村 敦	食文化学部 准教授	×
	● 加藤 充美	学生部長	○
山陽学園大学	○ 澁谷 俊彦	総合人間学部 生活心理学科 教授	○
就実大学	○ 鈴木 利典	薬学部 教授	○

第2回 岡山オルガノン 「地域活性化委員会」 議事録

日 時：平成23年2月23日（木）15：30～17：00

場 所：岡山商科大学 7号館7階772教室、各大学のテレビ会議システム設置教室

(1) 会議に先立ち、大崎委員長より、議題2の説明の為に出席された岡山県の二名について紹介がなされた。

(2) 地域活性化委員会活動のまとめについて

大崎委員長から、別紙資料に基づき、下記の説明がなされた。

平成21年度に、各大学が行っている教育や研究テーマについて調査を実施した。その結果、県内の特定地域に関する研究と子供や高齢者に関する研究の二つのテーマが挙げられた。また大学コンソーシアム岡山で実施されてきた学生・教員参画で行うエコ活動を加え、これらを中心に約二年半、事業を実施してきた。

実施内容は、主に平成22年度は「エコナイト」と「地域活性化シンポジウム」、平成23年度は「日ようび子ども大学」と「エコナイト」である。オルガノン事業が始まるまで、各大学が個々に行ってきた教育研究を、大学連携という形で実施することができ、今後の連携体制を整えることができたと考えている。

平成23年度に行われた大学連携による地域活性化シンポジウムでは、二つの分科会が設けられ、一つは大学教育連携センターを中心に「大学における活動と大学間連携」をテーマに、基調講演や学生による活動報告、パネルディスカッションが行われた。もう一つは「地域活性化委員会」を中心に「日ようび子ども大学」をテーマに実施し、多くの来場者があり、地域貢献をすることができた。

平成22年度に行われた「地域活性化シンポジウム」では、岡山商科大学の多田委員長を中心に研究発表やパネルディスカッションを実施し、岡山地域を中心とした視点での重要な取り組みであった。

平成22、23年度と実施したエコナイトでは、各大学の学生が参画し、今後も実施していただきたい。今年度は3月11日の東日本大震災があったことにより、復

興支援活動についても78名の学生が前向きに取り組み、岡山市と連携して実施することができた。

平成24年度については、1月20日に開催された大学コンソーシアム岡山の代表者会議で継承が決定し、事業費が予算計上されている。

(意見)

(a) 外部への報告資料となるので連携大学の人名に「氏」とつけなくてよいのではないか。(山陽学園大学・澁谷委員)

これに対し、大崎委員長より木村センター長と相談し対応したいとの返答がなされた。

(b) 大学連携による地域活性化シンポジウムの第1分科会の中で、岡山大学学生の高橋さんのテーマがFDの分野と重なるので気になった。(岡山大学・小林委員)

(3) 平成24年度「日ようび子ども大学」について

大崎委員長から、別紙資料に基づき、下記の説明がなされた。

来年度の「日ようび子ども大学」について、岡山県から会場の貸し出しと開催候補日のご提案をいただいている。本日陪席いただいている岡山県教育庁の亀山氏より説明をお願いしたい。

亀山氏から、別紙資料に基づき、下記の説明がなされた。

今年度の日ようび子ども大学の事業内容を拝見した。来年度の日ようび子ども大学の会場として、岡山県生涯学習センターを提案し、実施候補日は6月16日(土)、6月24日(日)、7月21日(土)、7月22日(日)、7月29日(日)であるが、その他の日程でも考慮の余地はある。別紙パンフレットをご覧いただきたい。平成25年にオープンを予定している未来科学棟について、科学だけに限らず様々な分野で各大学でも利用していただければ、ソフトプログラムを来館者に提供することができ、連携事業の先駆けとなる。

(意見)

(a) 予算計上されているので、各大学に協力して実施していただきたい。(岡山理科大学・木村センター長)

(b) 子供というのは大切な存在なので、継続実施していただきたい。(岡山商科大学・多田委員)

(c) 提案されたことについて、大学連携で行う意味合いが強く示され、良いアイデアである。(川崎医科大学・大槻委員)

(d) 実施場所について、大学に行くということも楽しみの一つだと思うが、官学連携という視点から考えると、新しい素敵な場所というのは子供たちにとって楽しいと思う。日程について、夏休みの最初に行うと小学生が集まりやすく、6月頃に行うと幼児が

集まりやすいのではないか。(環太平洋大学・勝田委員)

(e) 実施場所の提供について、会場校となるところは負担が大きいので助かる。ただ、生涯学習センターへのアクセス方法として、公共交通機関では不便ではないか。日程について、夏休みの最初に行うと小学生が集まりやすいとのことだが、7月下旬になると大学側は試験期間に入る。(中国学園大学・中田委員)

(f) 新しい施設なので子供たちも喜ぶのではないか。科学棟とあるが、科学的な取り組みでなくてもよいのか。(ノートルダム清心女子大学・小田委員代理)

これに対し、大崎委員長より以下の返答がなされた。

各大学で行っているものを出展していただきたい。

(g) 場所の使用料は発生するのか。(岡山大学・小林委員)

これに対し、亀山氏から無料で貸し出すことも可能との返答がなされた。

(h) 名称について、大学をキャンパスに変えるのはどうか。(岡山大学・三好委員)

(i) 平成25年にオープンとあるが、平成24年度ではどの程度使用することができるのか。センターへのアクセス方法や駐車場の有無など、スタッフだけでなく来場者に関しても考慮しないとイケない。(岡山県立大学・岡崎委員)

これに対し、亀山氏から以下の返答がなされた。

体育館などが既存しているので来年度はそちらを利用していただける。体育館であれば雨などでも実施可能である。アクセス方法については、公共バスの便が少ない為、車での来場が予想されるので運動場を駐車スペースとして考えている。しかし雨の場合は難しいかもしれない。

(j) 今後も事業を継続していただきたい。(岡山学院大学・宮崎委員)

(k) 良いイベントなので継続していただきたい。日程について、オープンキャンパスの日程と重複する可能性もあるが、子ども学科を設置しているので出展者を探していきたい。(吉備国際大学・井勝委員)

(l) 来年度は是非参加したい。アクセスなどを考えると、今後倉敷地区の実施も考えていただきたい。(くらしき作陽大学・加藤委員代理)

(m) まずは子供が来て盛り上がるのが大事なので、開催時期や名称などはそのままでもよいのではないか。また、段ボールなどで門を作るなどして大学らしさを演出してみてもどうか。(山陽学園大学・澁谷委員)

(n) 来年度はちらしの配布などについて、各大学にお願いする可能性がある。(大崎委員長)

(o) 計画の段階において、学校、PTAの関係者に協力いただくのはどうか。場所に関しては、隣接地域なので特に問題はないのでは。(山陽学園大学・澁谷委員)

これに対し、亀山氏から以下の返答がなされた。

昨年生涯学習センターが実施したイベントには約2,000人の来場者があった。センター独自の宣伝ルートがあるので問題ない。

(p) 主体が変わっていないので、名称などはそのままよいのではないか。会場について、設備や備品などが整っているようなので行いやすいのではないか。(就実大学・鈴木委員)

(q) 岡山大学は8月まで試験期間である。(岡山大学・三好委員)

(r) 7月は行事などで忙しいので、6月であれば参加したい。(くらしき作陽大学・加藤委員代理)

(s) 8月以降の可能性はどうか。(岡山県立大学・岡崎委員)

これに対し、亀山氏から以下の返答がなされた。

話を持ち帰り、日程の調整をしたい。8月以降であっても、空調などが整備されているので実施には問題ない。

以上の意見を踏まえ、来年度の日ようび子ども大学は生涯学習センターで実施する方向で検討していくことので了承された。また、大崎委員長より小委員会を開催し、実施案をまとめることが提案され、了承された。

(意見)

(a) 実行委員を設定し、委員会という形式でなくてもよいのではないか。(岡山理科大学・木村センター長)

(b) 全体の流れは前回と同様でよいと思う。(山陽学園大学・澁谷委員)

(c) 澁谷委員に賛同する。(岡山県立大学・岡崎委員)

(d) 異議ない。(中国学園大学・中田委員)

(e) 実効性があると思う。(くらしき作陽大学・加藤委員代理)

(f) 平成24年度の各大学のスケジュール上、現在6月24日は全大学とも行事が入っていない。(岡山理科大学・木村センター長)

(g) 第一候補は6月24日というのはどうか。(大崎委員長)

(h) 雨天時は駐車場が難しい点から、6月上旬は梅雨ではない可能性もあるのでいかがか。(中国学園大学・中田委員)

これに対し、大崎委員長から6月24日(日)を第一候補として現委員会の実行委員会で検討していくとの返答がなされた。

(意見)

(a) 岡山県内の13大学が連携し、厚生労働省からの補助金による県の助成事業を行っている。子育てカレッジやシンポジウムなど地域活動を行っている。(環太平洋大学・勝田委員)

(b) 勝田委員の意見に対し、日ようび子ども大学と主旨が合致しているので、連携していければと思う。(岡山大学・小林委員)

(4) 大学コンソーシアム岡山の委員会委員について

大崎委員長から、別紙資料に基づき、下記の説明がなされた。

来年度より、大学コンソーシアム岡山で各委員会が立ち上がる。地域活性化委員会は、地域貢献委員会との対応で考えていただきたい。各大学から委員を選出していただくが、地域活性化委員会委員の先生方は、今後も地域貢献委員会においても委員を担当していただきたい、との依頼がなされた。

(補足説明)

大学コンソーシアム岡山に事業を継承し、新組織で運営していくことが決まった。大学コンソーシアム岡山では、リーダー及びサブリーダーによる企画会議を行っていたが、事業が広がるため、各委員会で検討した上で各委員長が企画会議にて議論していく形となる。

平成22年度 「エコナイト」

文部科学省平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」選定事業「『岡山オルガノン』の構築」において、学士力・社会人基礎力・地域発信力を高めるための事業を県内15大学が連携して行っている。その中の「地域発信力」を高めるため、地域活性化委員会を組織し、地域研究に関する取り組みを行うと共に、環境について考える「エコナイト」事業を実施した。

県内参加大学によりライトダウン、マイカー自粛、エコキャンドル点灯、エコに関するイベントを行った。岡山商科大学では、エコ週間として少紙化、省エネの取り組みを行い、7月7日は「考えるエコ」と題したミニ講演会とエコキャンドル及びケミカルライトの点灯イベントを実施し、学生47名、教職員22名の計69名が参加した。イベントの様子はテレビ会議システムを通じ、岡山大学及びくらしき作陽大学に配信された。

事業の概要は次の通り。

1. 名称：「エコナイト」
2. 目的：連携校15大学による環境教育の実践的活動の実施。
3. 開催日：平成22年7月7日(水)他
4. 開催時間：各大学による。
5. 開催場所：各大学による。
6. 参加者数：約1,000人（対象：一般、学生、大学教職員）
7. 主催：岡山オルガノン 地域活性化委員会
8. 内容：以下の通り。

(1) 連携校との連携活動

① 「ライトダウン」

午後8時にライトダウンを行う。

7月7日午後8時にカウントダウンで一斉にライトダウンのイベントを実施。

CO2 削減による温暖化防止を目的として、午後8時から9時までの1時間、各大学の施設等を出来る限り消灯。

防犯における照明は、安全を確保するために点灯。

② 「マイ・カー乗るまあday」(No my car day)

当日は、マイカー利用を控えるよう呼びかけた。

自動車通勤をしている教職員等に、出来るだけ車の利用を控えるよう呼びかけた。

③ その他イベント

各大学の学生が主体となってイベントを実施した。

(2) エコキャンドルの作製見学

- ・ 実施場所：ペガサスキャンドル株式会社
- ・ 参加大学：岡山県立大学、岡山商科大学、岡山理科大学、中国学園大学
- ・ 参加者数：24名（対象：学生19名、大学教職員5名）
- ・ 実施内容：エコ教育の一環として、6月23日(水)にキャンドル・ロウソクの開発、製造、販売

を行っているペガサスキャンドル(株)へ学生19名が訪問し、廃食油からキャンドルを作製する過程を見学した。

9. 成 果:

平成22年7月7日(水)を中心に開催したエコナイトは、15大学で足並みをそろえて環境教育の実践的活動を実施することを目的とし、学内消灯や自動車通勤の自粛、その他各大学でイベントを行い、意義ある活動を行うことができた。

岡山オルガノン事業における第1回目のエコナイトの取り組みとなり、教職員と学生が一体となって、エコ啓発教育やイベントの取り組みを共有することにより、環境に対する重要性和理解が深まった。来年度は、学生間の交流活動推進と地域への拡充を目指す。

10. 収支決算書

※下記の支出は、本学オフィスにおける経費です。

収 入		支 出	
内 訳	金 額	内 訳	金 額
大学教育改革推進等補助金	111,632	消耗品費	49,136
		・ルミカライト(81.9円×500円)	
		・カセットコンロ他(8,186円))	
		国内旅費	4,820
		・ペガサスキャンドル見学会引率費 (2,410円×2)	
		印刷製本費	51,660
		・エコナイトチラシ・資料印刷代 (8.61円×6,000枚)	
		通信費	6,016
		・チラシ・ルミカライト送料 (399円×11、472円×2、683円×1)	
計	111,632	計	111,632

平成22年度岡山オルガノン「エコナイト」 連携校12大学の取組み活動報告

大学名	行事の名称	開催日時	開催場所	参加人数	開催内容
岡山大学	岡山大学環境管理センター公開シンポジウム「地域の自然エネルギー活用と地方の活性化」	6月26日(土) 13:00～17:00	岡山大学 創立50周年記念館	150名	現在、新エネルギーの導入、その中でも自然エネルギーの貢献が期待されているので、自然エネルギーを普及させるという目的のみならず、地域に眠る未利用資源として活用し、地方の活性化を目指すことを念頭に、4名の専門家から具体的な事例や提言を述べていただき、その後、パネルディスカッションにより討論を行った。
岡山県立大学	七夕フェスティバル	7月7日(水) 17:45～20:45	岡山県立大学 講堂前広場	300名	本学学生が企画運営する「七夕フェスティバル2010」との共催事業として、エコナイトを実施した。 ・ライトダウンで構内を消灯(10分間) ・エコキャンドルと学生自作の自家発電自転車によるLEDの光で、天の川と夏の大三角形を表現
岡山学院大学	ライトダウン	7月7日(水)			
	マイ・カー乗るまあday	7月7日(水)			
岡山商科大学	ミニ講演会「考えるエコ」	7月7日(水) 19:20～19:50	岡山商科大学 7号館7階772教室	教職員17名 学生47名	NPO法人岡山環境カウンセラー協会会長の藤本晴男氏が地球環境問題について講演を行った。
	蛍光ライトの人文字	7月7日(水) 20:00～20:20	岡山商科大学 中庭	教職員22名 学生47名	学友会有志による蛍光ライトを使用した人文字を披露した。
岡山理科大学	ペガサスキャンドル見学会	6月23日(水) 12:00～16:30	ペガサスキャンドル株式会社倉敷工場	連携校学生 19名 引率者 5名	ペガサスキャンドル株式会社のDVD視聴、製造装置・製品・工場の見学、3S・5Sの取組の紹介など
	エコキャンドル作製講習会	7月1日(木) 18:00～21:00	岡山理科大学 第21号館4階 人類学実習室	70名	パワフル油っ固(ライオン株式会社)を廃食用油(約40)に混ぜ凝固させ、芯を立ててろうソクを作製する。器には竹筒などを使用し、その竹筒の製作も実施する。
	七夕オーナメント準備会	7月2日(金) 18:00～21:00	岡山理科大学 第21号館4階 人類学実習室	60名	実行委員会(1枚)、岡山オルガノン(2枚)、アスエコ(3枚)、エコまっしぐら(2枚昨年度のCO2削減量調査結果)、写真部・柳先生(4枚、昨年度のライトダウン前後の市内の情景写真等)、笠先生(2枚、講演内容関連)、井上先生(2枚、岡山市提供)
	ポスターセッション	7月1日(木)～ 7月7日(水)	岡山理科大学 第25号館1階学生控室		エコに関するポスターを期間中展示し、学生のエコに対する環境啓発教育を行う。そのため、10枚～12枚程度のポスターを展示する。井上堅太郎先生(4)、齊藤達昭先生・エコまっしぐら(1)、柳貴久先生(1)、VSW(1)、アスエコ(2)、美術部(広報用ポスター1)が出展する。
	七夕エコナイト	7月7日(水) 18:20～20:30	岡山理科大学 スカイテラス(学生広場)	250名	・エコに関するアンケート調査の実施 ・ミニ講演会(七夕エコナイトの意義、ペガサスキャンドル) ・学生エコ発表会(のっばら、エコまっしぐら) ・天文学イベント(天文部、天文学講演会、天体観測) ・一斉ライトダウン、キャンドルサービス ・学生によるエココンサート(クリスタルコール部) ・スカイテラスから岡山市内のライトダウン状況記録(写真部)
川崎医療福祉大学	七夕の夜に手話で歌おう	7月7日(水) 19:00～19:40	大学プラザ	90名	手話サークル Finger Voice による「涙そうそう」の手話指導と、参加者全員で歌うイベント
	七夕の夜のうた	7月7日(水) 19:40～19:55	大学プラザ	100名	本学講師田中順子先生によるハンドベルによる演奏「星に願いを」と独唱「アメーzingグレイス」。
	カウントダウンイベント	7月7日(水) 19:55～20:05	大学プラザ	120名	大変一体感があり、最も盛り上がりを見せたイベントであった。学生たちに対してこのイベントが最もエコロジーについて啓蒙できたように思われる。
	七夕漫談	7月7日(水) 20:05～19:40	大学プラザ	120名	ボランティアセンター副センター長で講師の西本哲也による七夕エコ漫談を行い、会をお開きに導いた。
吉備国際大学	キャンドルナイト in高梁2010	7月9日(金) 18:15(点火式)～20:30 (キャンドル終了) ※雷雨のため 19時中止	高梁市紺屋川一帯	教職員6名、 学生30名(本学の人数。この他に、2高校の教員学生が参加)	吉備国際大学、高梁城南高校、高梁高校との共同で廃食用油を利用したキャンドル夜久800本を製作し、市内中央の紺屋町を流れる紺屋川の護岸一帯にキャンドルを並べて点灯した。当日は、本学出店先の駐車場に於て、点火式を行い、全キャンドルの点火が終了したところで、突然の雷雨に見舞われた。やむなく、点火キャンドル全てを一気に回収する事態になったため、19時以降の見学は中止となった。

大学名	行事の名称	開催日時	開催場所	参加人数	開催内容
倉敷芸術科学大学	流しソーメン	7月7日(水) 18:45~	大学キャンパス内	50名	学生達が竹を切り、ソーメン台を作り、ソーメンを流した。箸と汁碗は持参だが、持っていない人にはエコ関係団体に寄付することを前提に、募金した者には箸を与えた。
	学友会のイベント	7月7日(水) 19:15~	大学キャンパス内	70名	学友会のサークル ウインドアンサンブルとアコースティックギター一部の演奏
	エコに関する講話	7月7日(水) 20:10~	大学キャンパス内	70名	エコに関する講話
山陽学園大学	The Star Festival in SANYO	7月7日(水) 20:00~21:00	学生寮並びに学生寮横の学生駐車場(共に学校敷地内)	教職員2名 学生54名	寮内で七夕飾りを作り、笹に短冊を飾るなどして七夕行事を行った後、隣接の学生駐車場に移動、配布の蛍光ライトを用いたり、廃物利用でプラスチックの透明コップにキャンドルを入れ、駐車場で「SANYO」の形になるよう配置したりした。学生駐車場でイベント中は寮内を消灯し節電に取り組んだ。
就実大学	ライトダウン	7月7日(水)			
	マイ・カー乗るまあday	7月7日(水)			
中国学園大学	エコナイト	7月7日(水) 20:00	第一学生ホール	100名	(1) 飯田センター長のミニ講演会 (2) 学長のコーラス (3) 学生のアコースティック・ライブ
ノートルダム 清心女子大学	ライトダウン	7月7日(水)			
	マイ・カー乗るまあday	7月7日(水)			

平成22年度 「地域活性化シンポジウム」

文部科学省平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」選定事業「『岡山オルガノン』の構築」において、学士力・社会人基礎力・地域発信力を高めるための事業を県内15大学が連携して行っている。その中の「地域発信力」を高めるため、地域活性化委員会を組織し、地域研究に関する取り組みを行った。

「地域活性化シンポジウム」は連携校15大学に呼びかけ、地域に関する研究をとりまとめ、大学間連携による新しい地域活性化を模索することを目的として行った。

事業の概要は次の通り。

1. 名称：岡山オルガノン「地域活性化シンポジウム」－「地域発信力」のための連携の模索－
2. 目的：連携校15大学に呼びかけ、地域に関する研究をとりまとめ、大学間連携による新しい地域活性化を模索すること。
3. 開催日時：平成22年10月2日(土) 13:00～16:00
4. 会場：[メイン会場]
岡山商科大学 7号館 7階 772教室
[サテライト会場]
(1) 倉敷芸術科学大学 (2号2階2203講義室)
(2) くらしき作陽大学 (6号館1階101室)
(3) 山陽学園大学 (本館4階404小講義室)
5. 参加者数：78名(サテライト会場含む)
(一般:26名、学生:3名、大学教員:25名、大学職員:24名)
6. 主催：岡山オルガノン 地域活性化委員会
7. 内容：以下の通り。

[第1部：取り組み内容の発表]

発表者：

- (1) 藤高 邦宏 (倉敷芸術科学大学 産業科学技術学部 教授)
「倉敷地域における学生による地域活性化の取り組み」
- (2) 木戸 啓仁 (くらしき作陽大学 食文化学部 教授)
「玉島地域における食の新商品開発の取り組み」
- (3) 濱田 栄夫 (山陽学園大学 総合人間学部 教授)
「門田地域の歴史的意味について」
- (4) 志野 敏夫 (岡山理科大学 総合情報学部 教授)
「岡山という地域を知る」
- (5) 多田 憲一郎 (岡山商科大学 地域再生支援センター長・経済学部 教授)
「新庄村における集落活性化の取り組み」

[第2部：パネルディスカッション]

コーディネーター：多田 憲一郎（岡山商科大学 地域再生支援センター長・経済学部 教授）

パネリスト：

- （1）岡 莊一郎 氏（倉敷商工会議所 副会頭）
- （2）片倉 博 氏（和気町 丸山・南山方区集落機能再編強化委員会 委員長）
- （3）守屋 基範 氏（笠岡市建設産業部 経済観光活性課 統括）

8. 成 果：

倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、山陽学園大学、岡山理科大学、岡山商科大学の5大学から5名の発表者による取り組み内容の発表、そして、倉敷商工会議所、和気町、笠岡市から3名のパネリストによるパネルディスカッションを行った。78名の参加者があり、今後の大学連携活動に対する期待を窺うことが出来た。

9. 収支決算書

※下記の支出は、本学オフィスにおける経費です。

収 入		支 出	
内 訳	金 額	内 訳	金 額
大学教育改革推進等補助金	359,490	消耗品費	3,150
		印刷製本費	327,600
		・冊子(441円×500部)	
		・ちらし(7.35円×10000部)	
		・ポスター(45枚)	
		人件費	20,800
		・外部講師謝金	
		旅費交通費	7,940
		・シンポジウム打ち合わせ旅費	
		・講師交通費	
計	359,490	計	359,490

平成23年度 「大学連携による地域活性化シンポジウム」

文部科学省平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」選定事業「『岡山オルガノン』の構築」において、学士力・社会人基礎力・地域発信力を高めるための事業を県内15大学が連携して行っている。その中の「地域発信力」を高めるため、地域活性化委員会を組織し、学生や大学教職員、地域住民が共同で参画できる事業実施を目指して、地域に関する取り組みを取りまとめ、大学間連携による地域活性化を図るシンポジウムを開催した。

事業の概要は次の通り。

1. 名 称： 岡山オルガノン「大学連携による地域活性化シンポジウム」
2. 目 的： 連携大学による地域研究の集約と地域への還元、連携大学間の学生交流と活動の一般への公開
3. 開催日時： 平成23年6月26日(日) 13:00～16:10
4. 会 場： 岡山商科大学 学生会館 2階(第1分科会) 1階(第2分科会)
5. 参加者数： 575名 (対象：一般、大学教職員、学生)
第1分科会： 67名(一般13名、学生22名、大学教員16名、大学職員16名)
第2分科会： 508名(一般大人182名、一般子供207名、学生46名、大学教員15名、
大学職員58名)
6. 主 催： 岡山オルガノン
7. 内 容： 以下の通り。

【第1分科会】 テーマ： 学生活動の取組報告「大学における活動と大学間連携」

岡山オルガノンや地域活性化への取組紹介、川崎医療福祉大学におけるボランティア活動に関する基調講演、岡山理科大学、岡山大学、川崎医療福祉大学、倉敷芸術科学大学の各学生による学生活動報告、およびパネルディスカッションが行われ、パネリストとフロアとの活発な意見交換が行われた。

- (1) 岡山オルガノン事業取組紹介 木村 宏 (大学教育連携センターセンター長)
- (2) 地域活性化への取組紹介 大崎 紘一 (岡山商科大学オフィス室長)
- (3) 基調講演
「川崎医療福祉大学ボランティアセンターの取組について」
西本 哲也 (川崎医療福祉大学 ボランティアセンター副センター長・講師)
- (4) 学生による事例報告とディスカッション
コーディネーター 小山 悦司 (倉敷芸術科学大学 教育研究支援センター所長・教授)
 - ① 「i*See 2010～第1回大学生改善交流」
高橋 和 (岡山大学、i*See 2010 実行委員長)
 - ② 「若者の元気がまちを元気にする！」
入江 公美子 壺井志保 難波志帆 (倉敷芸術科学大学)
 - ③ 「本学ボランティアセンター学生スタッフの活動報告と課題」
新谷 卓也 (川崎医療福祉大学大学院)

④「科学ボランティアセンター学生スタッフ会の活動紹介」

安宅 祐介 杉山 都飛（岡山理科大学）

【第2分科会】 テーマ：「日ようび子ども大学」大学連携による子ども参加型ブース展示と発表

岡山県立大学、岡山商科大学、岡山理科大学、川崎医療福祉大学、倉敷芸術科学大学、山陽学園大学、就実大学、中国学園大学の8大学による子育て支援、学生主導のゲームやおもちゃ遊び、工作、絵画、地図作成、科学実験などを通じて、親子が遊び感覚で経済や科学を学習する場が設けられた。

大学名	出展者氏名	テーマ
岡山県立大学	情報工学部 スポーツシステム工学科 准教授 越川 茂樹 保健福祉学部 保健福祉学科 講師 新山 順子	いろんな遊具(ゆうぐ)であそぼう！
岡山商科大学	経営学部 商学科 准教授 高林 宏一	「欲しいものや必要なもの」違いを見つけて 手に入れられるかな？
岡山理科大学	理学部 化学科 准教授 高原 周一	おうちでできる楽しい実験・工作
川崎医療福祉大学	医療福祉学部 臨床心理学科 准教授 武井 祐子	お子さんの“気質(性格)”を理解して関わり かたについて考えてみよう
倉敷芸術科学大学	産業科学技術学部 経営情報学科 教授 小山 悦司	色で遊ぼう！体を使ったお絵かき教室
山陽学園大学	総合人間学部 生活心理学科 教授 澁谷 俊彦	「生活心理による安全安心マップ」づくり
就実大学	教育学部 初等教育学科 教授 佐藤 和順	就実子育てアカデミーってなんだろう？
中国学園大学	子ども学部 子ども学科 講師 中田 周作	作って遊ぼう！親子で工作教室！！

8. 収支決算書

※下記の支出は、本学オフィスにおける経費です。

収入		支出	
内訳	金額	内訳	金額
大学教育改革推進等補助金	720,891	消耗品費(文房具代)	138,856
		雇用等経費(学生アルバイト謝金)	128,100
		借料・損料(会場設営費(パーティション設営等))	330,750
		通信運搬費(チラシ・物品送料)	10,877
		印刷製本費	112,308
		(チラシ(6.22円×13,000枚)ポスター(630円×50枚))	
計	720,891	計	720,891

平成23年度 「エコナイト」

文部科学省平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」選定事業「『岡山オルガノン』の構築」において、学士力・社会人基礎力・地域発信力を高めるための事業を県内15大学が連携して行っている。その中の「地域発信力」を高めるため、地域活性化委員会を組織し、地域研究に関する取り組みを行うと共に、省エネについて考える「エコナイト」事業を実施した。

県内参加大学によりライトダウン、マイカー自粛、エコキャンドル点灯、エコに関するイベントを行った。岡山商科大学では、エコ週間として少紙化、省エネの取り組みを行い、7月7日は「“がんばろう日本”のための『エコ活動』」と題した東日本応援活動を連携校の岡山理科大学、山陽学園大学、就実大学、本学の4大学が合同で実施した。開催場所は雨天のためNHKひかりの広場で行い、学生78名、教職員14名と一般市民の約110名が参加した。

事業の概要は次の通り。

1. 名称：「エコナイト」-“がんばろう日本”のための「エコ活動」-
2. 目的：県内15大学で環境教育の実践的活動の実施。
3. 開催日：平成23年7月7日(木) (関連イベント 6月25日、7月6日、7月9日など)
4. 開催時間：各大学による。
5. 会場：NHK ひかりの広場(岡山駅西口)他、岡山県内14大学など。
6. 参加者数：1,500名 (対象：一般、学生、大学教職員)
7. 主催：岡山オルガノン
8. 内容：以下の通り。

(1) 岡山県との連携活動

① 省エネ活動

5月中旬以降各大学でクールビズを実施、冷暖房温度を28℃に設定、不要な家電品の電源を切る等節電活動を9月下旬まで行っている。

② ライトダウン

午後8時にライトダウンを行い、各大学の施設等を可能な限り消灯した。

③ 「マイ・カー乗るまあ day」(No my car day)

自動車通勤をしている教職員等は、可能な限り車の利用を控えた。

(2) 岡山市との連携による「東日本応援およびエコイベント」

- ・ 実施場所：NHK ひかりの広場
- ・ 参加大学：岡山商科大学、岡山理科大学、山陽学園大学、就実大学
- ・ 参加者数：約110名 (対象：一般約20名、学生78名、大学教職員12名)
- ・ 実施内容：岡山オルガノン連携校4大学の学生78名が主体となり、キャンドルホルダーを使用し東北地方をハートでマークした日本地図作成を行った。またエコうちわに市民の方々から応援メッセージを記入頂き、7月25日(月)に東北に送付した。

(3) エコキャンドルの作製見学

- ・ 実施場所： ペガサスキャンドル株式会社
- ・ 参加大学： 岡山大学、岡山商科大学、岡山理科大学、中国学園大学
- ・ 参加者数： 38名（対象：学生29名、大学教職員9名）
- ・ 実施内容： エコ教育の一環として、6月22日(水)にキャンドル・ロウソクの開発、製造、販売を行っているペガサスキャンドル(株)へ学生29名が訪問し、廃食油からキャンドルを作製する過程を見学した。

(4) 各大学の活動

各大学の学生が主体となってイベントを実施した。詳細は次ページの通り。

9. 成 果：

平成23年7月7日(木)を中心に開催したエコナイトは、15大学で足並みをそろえて環境教育の実践的活動を実施することと岡山県、岡山市等行政団体、企業とリンクして学生間の交流活動推進と地域への拡充を目的とし、学内消灯や自動車通勤の自粛、その他各大学でイベントを行い、意義ある活動を行うことができた。岡山オルガノン事業における第2回目のエコナイトの取り組みとなり、教職員と学生が一体となって、エコ啓発教育やイベントの取り組みを共有することにより、環境保護の重要性に対する理解と認識が深まった。

10. 収支決算書

※下記の支出は、本学オフィスにおける経費です。

収 入		支 出	
内 訳	金 額	内 訳	金 額
大学教育改革推進等補助金	233,943	消耗品費	
		・消耗品	33,760
		・ルミカライト(81.9円×650本)	53,248
		・フローティングキャンドル(52.5円×528個)	27,720
		印刷製本費	
		・チラシ(11.4円×6,000枚)	68,670
		国内旅費	
		・ペガサスキャンドル出張(1,250円×3名)	3,750
		借料・損料	
		・打合せ・搬入駐車料金 5件	1,760
		通信費	
		・チラシ(13大学)・ルミカライト送料	6,395
		委託費	
		・バス運転委託(ペガサスキャンドル工場 見学27090円、エコナイト11,550円)	38,640
計	233,943	計	233,943

平成23年度岡山オルガノン「エコナイト」 連携校15大学の取組み活動報告

大学名	行事の名称	開催日時	開催場所	参加人数	開催内容
岡山大学	公開シンポジウム 「震災から学ぶエネルギー対策」	6月25日(土) 13:00~17:00	岡山大学 創立50周年記念館 多目的ホール	170名	未曾有の東日本大震災が発生し、誰もが案じているエネルギー問題。復興に間接的ながら寄与すること、ここ岡山ではどのように対応すべきかを念頭に、4名の専門家から具体的な事例や提言を述べていただき、その後パネルディスカッションにより討論を行った。
	岡山大学 エコナイト	7月7日(木) 18:00~20:15	岡山大学 環境理工学部 玄関ホール付近	100名	雨天に伴い、開催場所を屋内に変更した。開会宣言ののち、エコMYマニフェスト、短冊へ東日本大震災被災地へのメッセージを記載するほか、エコ活動や七夕にちなんだ天文に関する話題提供、またエコクイズ大会と表彰が行われた。折しも雨が上がったため、屋外にキャンドルを配置し、グリークラブの歌声の下、キャンドルナイト及びライトダウンを行った。
岡山県立大学	岡山県立大学 七夕フェスティバル 2011	7月7日(木) 17:20~20:50	岡山県立大学 講堂前広場	200名 (学生、教職員)	アカペラ部、奇術サークル、アコースティックギター部、総合音楽部、軽音部によるライブ 学内ライトダウン キャンドルを使用し、夏の夜空(天の川と夏の大三角形)を表現 手持ち花火による花火大会
岡山学院大学	ライトダウン	7月7日(木)			
	マイ・カー乗るまあday	7月7日(木)			
岡山商科大学	東日本応援活動 及びエコイベント	7月7日(木) 18:00~20:00	NHK ひかりの広場	学生78名 (岡山商科大学49名岡山理科大学12名就実大学8名山陽学園大学9名) 教職員14名 (岡山商科大学11名山陽理科大学1名就実大学1名山陽学園大学1名)	①日本地図の作成 ②エコうちわへの東日本応援メッセージの記入とチラシ配布 ③アコースティックライブ ④記念撮影
岡山理科大学	七夕エコナイト	7月7日(木) 18:20~20:30	岡山理科大学 スカイテラス 学生ホール	学生約200名 教職員50名	18:20 実行委員長挨拶(波田学長) 18:30 NHK実況中継 18:40 省エネ推進専門委員会委員長挨拶(金枝副学長) 18:45 エコ講演「与謝野晶子と電気工学」(工学部・笠先生) 19:00 エコ講演「エネルギー消費から見た現代日本人の存在様式」(理学部・高崎先生) 19:15 学生エコ発表会(のっぽら、エコまっしぐら、生地研究会、東日本被災支援の会、天文部) 19:50 ライトダウンの説明(実行委員会副委員長・猪口先生) 20:00 一斉ライトダウン、キャンドルサービス 20:10 エココンサート(クリスタルコール) 20:20 天文講演(総合情報学部・田邊先生) 20:30 閉会挨拶(大学教育連携センター・木村)
	東日本応援活動 及びエコイベント	7月7日(木) 18:00~20:00	NHK ひかりの広場	学生12名 教職員1名	「手回し発電機で電気エネルギーを実感しよう」 手回し発電機に何も繋がらない時と電球を繋いだ時の負荷の違いを体験する。 白熱電球と蛍光灯で負荷の違いを体験する。 LED電球についても説明する。
	エコポスター展示	7月2日(土)~ 7月7日(木)	25号館1階学生控室 スカイテラス 学生ホール		実行委員会(1枚)、岡山オルガノン(2枚)、アスエコ(3枚)、エコまっしぐら(2枚昨年度のCO2削減量調査結果)、写真部・柳先生(4枚、昨年度のライトダウン前後の市内の情景写真等)、笠先生(2枚、講演内容関連)、井上先生(2枚、岡山市提供)
	七夕飾りの展示	6月30日(木) ~7月7日(木)	25号館学生控室 25号館6階吹き抜け 21号館ロビー		6月30日 飾り付け用の竹を伐採し、展示会場へ設置、学生有志による七夕飾りの作成と飾り付け 7月1日~7月7日 各展示会場にて教職員・学生による短冊へのメッセージ記入と飾り付け
	ライブカメラによる七夕 エコナイトの情景配信	7月7日(木) (1日限定)	加計学園本部 屋上のライブカメラ		入試広報部の協力により、1日限りではあるが、インターネット(岡山理科大学公式HP)で本学の七夕エコナイトの実況画像を配信することになった。ただ、同日が雨天であり室内での開催となったので、ライブカメラを岡山市内中心部の情景を配信するよう設定変更していただいた。HPからの配信が当日のみであったし、雨天でもあったので、どの程度配信効果があったのかは不明である。

大学名	行事の名称	開催日時	開催場所	参加人数	開催内容
川崎医科大学	マイ・カー乗るまあday	7月7日(木)			
川崎医療福祉大学	七夕寄席	7月7日(木)	本館4階展示ホール	80名	①邦楽部の演奏 ②「エコロジー」についての講演会 ③カウントダウン消灯 ④手話サークルによるイベント
	マイ・カー乗るまあday	7月7日(木)			全学教員学生に、その日はマイカーを自粛して、徒歩や自転車で通勤、通学するように呼びかけた。
環太平洋大学	「七夕エコ茶会—お茶会と邦楽の夕べ—」	7月7日(木)	IPU 環太平洋大学	約80名	七夕の夜、短冊を書き皆で笹につるしました。また、お茶会を催すとともに、地元で活躍する邦楽の演奏家を招き楽しい解説と演奏を聴きました。
吉備国際大学	キャンドルナイト in高梁2011	7月9日(土) 19:00~20:30	高梁市紺屋川沿い	学生70名 (高校、大学) 教職員10名 (高校、大学)	16時に各校がロウソクの設置を開始、18時15分より主催者教員(吉備国際大学国際環境経営学部長、城南高校教員)による開会の挨拶、18時半に参加4校の代表学生が点火宣言(持ち寄ったキャンドルに点火する)をした。19時に点火を完了し、1040個のキャンドルが紺屋川沿いに並んだ。開始から1時間半、夜に浮かぶキャンドルを撮影する姿があちこちでみられた。同時間帯には、川沿いの店舗において、地域の音楽愛好家によるミニコンサートが開催された。
倉敷芸術科学大学	廃油から作ったロウソクに点灯	7月7日(木) 20:00	倉敷芸術科学大学 第1号館 周辺	50名	廃油から作成したロウソクを竹の切り株やペットボトルから作った容器に入れたものに点灯を行った。
	学生委員会によるエコの話	7月7日(木) 19:00	倉敷芸術科学大学 第1号館	聴衆約50名 (発表者2名)	学生委員会の代表者による、ペットボトルのキャップ集めの活動をしている内容などを発表した。
	織姫・彦星コンテスト	7月7日(木) 19:30	倉敷芸術科学大学 第1号館	学生男子7名 学生女子5名 見学者約50名	浴衣や甚平に身を包んだ男子・女子の学生がそれぞれの自己アピールを行い、参加者の投票でミス織姫・ベスト彦星を選んだ。
くらしき作陽大学	玉島地区親子クラブとの交流会	7月7日(木) 10:00~11:00	くらしき作陽大学 藤花楽堂	学生68名 教職員10名	学生による催し(短冊に願い事、親子ふれあい遊び、パネルシアター、親子で体操、ハンドベル、七夕のお話しなど)食文化学部開発・作陽オリジナル商品「作陽ボンボン」(フルーツ・おからようかん)の試食会
	トランペットアンサンブル・サマーコンサート	7月7日(木) 19:00~20:30	くらしき作陽大学 食堂	学生30名 教職員10名	作陽トランペットアンサンブルによるコンサート
	キャンドルナイト	7月8日(金) 18:00~20:00	くらしき作陽大学 聖徳殿および中庭	学生15名 教職員10名	キャンドル点灯18:00~20:00 金管アンサンブルによるコンサート 19:00~19:30
	さくようエコWeek	7月4日(月)~ 7月8日(金)	くらしき作陽大学 および家庭	全学生および 教職員	学生会の主催により、全学生および教職員に、節電や環境に配慮しエコ活動に取り組むことを訴えた。合い言葉は「みんなで『エコ』始めようぜ!!」
山陽学園大学	学生寮でのライトダウンとキャンドルサービス	午後7時頃より 8時頃まで	本学南門進入路	学生43名	①部屋の電気消して、学生寮の東側を通る本学南門進入路に集まった。 ②オルガンで送っていただいた蛍光ライトを地面に並べて、大学名SANYOを描いた。 ③大学に買ってもらったグラス入り蠟燭でハートを描き、東北への気持ちを表した。 ④思い切りはしゃいで写真を撮った。蛍光ライトの文字は色々な色が付いていて綺麗だった。ハートは薄黄色の蠟燭の色で、しんみりした。
	東日本応援活動 及びエコイベント	7月7日(木) 18:00~20:00	NHK ひかりの広場	学生9名 教員1名	山陽学園大学の学生が主に担当したことは、木の団扇に東北へのメッセージを書いてもらうこと。あとは、蠟燭並べ等、全体の活動を分担した。
就実大学	東日本応援活動 及びエコイベント	7月7日(木) 18:00~20:00	NHK ひかりの広場	学生8名 職員1名	①日本地図の作成 ②エコうちわへの東日本応援メッセージの記入とチラシ配布 ③アコースティックライブ ④記念撮影
中国学園大学	ライトダウン	7月7日(木)	中国学園大学 中国短期大学	呼びかけ対象 は、全教員	「ライトダウン」の呼びかけ。
	マイ・カー乗るまあday	7月7日(木)	中国学園大学 中国短期大学		「マイ・カー乗るまあday」の呼びかけ。
	軽音楽サークルによる アコースティックライブ	7月6日(水)	中国学園大学 中国短期大学	学生約60名 教職員約30名	アコースティックライブ。
ノートルダム 清心女子大学	ライトダウン	7月7日(木)			
	マイ・カー乗るまあday	7月7日(木)			